



MORINOMIYA COLLEGE OF
MEDICAL ARTS AND SCIENCES

森ノ宮医療学園専門学校

校友会会報

2001年 9月号

初秋号(2001.9発行)
編集発行責任者
浜田 暁

森ノ宮医療学園校友会会報〒537-0022
大阪市東成区中本4-1-8 TEL (06) 6976-6889
URL <http://www.morinomiya.ac.jp/>



第50回全日本鍼灸学会 大阪で開催される。

第50回(社)全日本鍼灸学会学術大会
が去る6月8日(土)10日の3日間、大阪国
際会議場(グランキューブ大阪)で開催
されました。大会テーマは「伝承と変革」、
サブテーマ「鍼灸は時空をこえて」とさ
れ、伝承医学をさらに発展させ新しい時
代に引き継いでいくことを目指した大会
でした。

大阪での50回記念大会ということもあ
り、本校の卒業生や講師、教員も多数、
発表、座長、実技公開などを行いました。
小児鍼の実技セッションでは、本校名
誉理事長の森秀太郎先生、非常勤講師の
竹下イキ子先生、非常勤講師の谷岡賢徳
先生、専任教員の森 優也先生、清水尚
道先生が実技公開を行いました。

【本校関係者の発表】

運動後の筋疲労回復に及ぼす刺激の効果
○井上悦子・米田貴生・井上護・小島賢久・
水谷加奈・山口雄三
抜歯術に対しSSPが奏功した1症例
河内明
抜歯術に対するSSP麻酔の臨床効果の
検討

○河内明
森ノ宮医療学園専門学校での客観的臨床
能力試験の検討
○小島賢久・森優也・竹中浩司・安雲和四
郎・清水尚道
頸部神経根症に対する鍼治療の有効性(第三報)
○竹田博文・湯谷達・鈴木信・尾崎朋文・
佐藤正人・米山榮



大会の様



森 優也 先生

筋硬結の検討(第4報)
○湯谷達・竹田博文・鈴木信・尾崎朋文・
佐藤正人・米山榮・竹中浩司
鍼治療の安全性に関する研究(第5報)
○鈴木信・竹田博文・湯谷達・尾崎朋文・
佐藤正人・米山榮・竹中浩司
膈中穴刺鍼の安全性と安全性の検討
○尾崎朋文・坂本豊次・森俊豪・湯谷達・
米山榮

○印は発表者



森 秀太郎 名誉理事長



竹下 イキ子 先生

平成14年度入試要項

平成14年度入試より新たに社会人入
試枠が設定されました。

以下の表の通り、新入試制度が森ノ宮
医療学園専門学校から公表されています。
主な改正点は、①社会人入試枠が設定さ
れ、「社会人推薦入試(A入試)」は医
療関係の国家資格保有者や、医療機関に
在職(鍼灸院・柔整整骨院など含む)に
1年以上在職の方は、面接・小論文・
国語の試験科目となり、9月23日(日)
に実施されます。②また、一般入試も3
回の実施となり、大幅に受験機会が増え
ました。詳細については、森ノ宮医療学
園専門学校入試事務室(06-6976-
6889)までお問い合わせください。
また、合わせて「学校見学会」も随時開
催されます。併設の「はりきゅうミュー
ジウム」もたいへん貴重な資料の展示が
されています。ご希望の方は電話でお申
し込みの上、ぜひご参加ください。

「はりきゅうミュージウム」所蔵品紹介

●口絵

「秘傳灸穴集」 柏龍軒 泰俊著

1744年

試験名	内容	出願期間	募集人員	試験日	応募者資格	試験科目
A入試	社会人推薦	8月1日(水)～ 9月14日(金)	両学科合わせて 概ね60名程度	平成13年 9月23日(日) ※平成14年3月 卒業見込みの高 校在学学生は受験 できません。	①医療機関に1年以上勤務経験 (在職中を含む)、もしくは医療機 関の所属長の推薦を受けるもの ②医療関係の国家資格保有者	面接・小論文・ 国語Ⅰ・Ⅱ (古文漢文を除く)
B入試	社会人入試		両学科合わせて 概ね60名程度		上記①②に該当しないもの	
C入試	一般入試 1次募集	9月3日(月)～ 10月5日(金)		平成13年 10月14日(日)		
D入試	一般入試 2次募集	10月15日(月)～ 11月30日(金)	両学科合わせて 概ね100名程度	平成13年 12月9日(日)	平成14年3月卒業見込みの高 校在学中の方は、校長推薦を受け ることができる場合は、高校長の 推薦書を添付すること。	面接・小論文・ 学科2科目(国語Ⅰ・Ⅱ (古文漢文を除く)) 必須・生物・社会・英語 の内1科目選択
E入試	一般入試 3次募集	12月10日(月)～ 2月8日(金)		平成14年 2月17日(日)		

学校説明会開催!



学校説明会

(柔道整復学科教員
葉山直史)

入試シーズンを控え、この夏、本校を会場に学校説明会が開催されました。5回開催のうち7月、8月に2回ずつ、計4回が行われ、毎回予想を上回る人数の参加をいただきました。(第5回目の学校説明会は9月30日に行われます。)

内容は二部構成で、前半は視聴覚教室で本校の概要や特徴を紹介する説明会、後半は学生ホールで個別相談会を開くとともに、学校内見学を行いました。

本校にとって初めての催しでしたが、暑い中来てくださった熱心な参加者に教職員も誠意ある対応が求められました。

参加者は数年来、鍼灸あるいは柔整を志望している人から、鍼灸、柔整に特定せず医療関係の仕事ということで興味を持つ人もおり、年齢も明らかに中年と呼べる人から現役の高校生まで多種多様でした。これまでは、入学が決まるまでの志望者と直接話をするという機会はなかっただけに、学校説明会を行ったことで、いろいろな方の生の声が聞けたことは教職員にとっても新鮮な体験でした。

実のところ、学校説明会の開催は養成施設が増えるという昨今の環境の変化によって、必要にせまられたという側面があります。しかし、これからは鍼灸や柔道整復を志す人が「どの学校に入るか」選択する時代となることが予想され、熱意ある学生の獲得のために、学校は積極的に情報を発信し続けることが必要になるでしょう。

学校にとっては厳しい時代ともいえませんが、この流れがさらに大きくなり、鍼灸や柔道整復が世の中でもっとメジャーな存在になっていくことになれば素晴らしいなと思います。

柔道整復学科の解剖見学実習も行われる!



解剖実習(吉田助教授の講義風景)

本校毎年恒例の解剖見学実習が、鍼灸学科は6月27日(水)、柔道整復学科昼間部は7月3日午前中、夜間部は午後に大阪大学歯学部解剖実習場にて実施されました。

今年度から、柔道整復学科の解剖見学実習が始まり、本校の特徴を活かした解剖見学実習が行われました。本校での実習の特徴は、専修学校研修生として鍼灸学科と柔道整復学科の教員各一名を同口腔解剖学第二講座に派遣しており、研修生が、鍼灸師・柔道整復師の立場で自分の目と手と頭で実際に解剖を行い、解剖した遺体を学生に供覧することです。その結果、本校では系統解剖学のみならず、鍼灸・柔道整復の臨床に直結した局所解剖学的・臨床解剖学的知識の修得をも目的とした解剖見学実習を実施しています。

本実習では、研修生を中心に学生への指導を行っています。実習の前に吉田助教授の実習にあたっての注意事項や献体や白菊会についての講義で始まり、実習の前半は、歯学部学生が解剖した遺体で系統解剖学的な学習を行い、後半は、研修生が解剖した遺体で、局所・臨床解剖学的な学習を行っています。

また、短時間の実習でより高い学習効果を上げるため、①剖出された解剖構造について事前に講義し、予備知識を高める。②特に見学したい解剖構造を学生に挙げさせ、見学実習までに研修生が可能な限り剖出するなどの工夫も行っています。

本年度の特徴は、柔道整復学科学生の学習を高めるために、明治東洋医学学院の巽先生をはじめとする同医学院の先生方と本校の先生方が共同で、歯学部学生の「肘・股・膝・足」を事前に、または、学生の前で剖出し、学生さんに供覧したことです。肩関節では関節唇と骨頭との関係・腱板や上腕二頭筋長頭などの走行。膝関節では、外・内側副韧带や半月板の内外での形状の比較や前・後十字韧带の走行などである。実習後の学生の授業に対する意欲的な態度が見られた事は、骨折・脱臼時の3次元的にイメージができ、色々な面でプラスになった実習であった。

(教務部長 尾崎朋文)

サマースクールについて



鍼灸学科において、7月16日から19日の4日間、1・2年生を対象にサマースクールを開講しました。本来であれば、この日程は前期試験と追試験の間であり、実質上休みであるにも関わらず、ほぼ学生全員の出席を見たことに感慨を禁じ得ません。

さて、今回のサマースクールの内容ですが、2年生は「医療面接」という比較的新しい、患者に対する診察法の1つについて学びました。現在、医学教育は、医師の素養、資質と能力として必要な、患者中心の医療の実践、安全性への配慮、信頼される人間関係、自ら問題を発見する姿勢や研究への動機づけなどを含む課題探索・問題解決能力の育成へと変わってきています。特に、患者中心の医療の実践、信頼される人間関係の構築には、医療面接の技法が重要といわれています。このことはわれわれ鍼灸医学教育においても全く無関係ではありません。そこで、この4日間のうち1日は特別講義として岐阜大学医学部の藤崎和彦先生をお招きし、医療面接の実践について講演していただきました。この中で、学生同士でのロールプレーや学生の代表者が実際にみんなの前でSP(スタンダード・ペイシェント・模擬患者)に対し医療面接を行うなど学生も緊張の中、真剣にこの課題に取り組んでいました。この様子は、NHKのニュースでも放映されましたのでご覧になった方もおられると思います。

模擬患者(ボランティア)募集のお知らせ

また1年生に対しては、今年度新入生よりカリキュラムが時間制から単位制に移行されたことを受け、授業内容の見直しを行いました。一部の教科の時間が減少いたしました。これを補完するために4日間、解剖学について集中講座を持ち、口頭試問が行われるなど、こちらも2年生に負けず劣らず密度の濃い授業内容となりました。

(鍼灸学科課長 森 優也)

患者の心や立場を理解でき、コミュニケーション能力の高い医師や医療従事者を育成するため、模擬患者を臨床医学教育の場に導入する医学部や医療従事者養成施設が増えています。模擬患者とは病歴や症状、検査データ、診断名などの医学的項目のほか、性格、生い立ち、生活習慣などの人物背景を詳細に設定した脚本に基づいて演じてもらい実際の患者と同様な状況を作りだし、試験的に鍼灸師役の学生と接し、また学生の態度や説明から安心感が得られたかなどについて、率直な感想を述べる。

この模擬患者となって学生教育をお手伝いしてくださる方を募集しています。お問い合わせは左記まで。

森ノ宮医療学園専門学校 教務部
尾崎朋文・森 優也・小島賢久
TEL 06 6976 6889



体育実習、グリーンピア三木にて実施

鍼灸学科の体育実習が5月26日(土)27日(日)に兵庫県三木市のグリーンピア三木にて実施されました。土曜日の夜から日曜日の朝にかけて雨が降りましたが、実習を行う日中は、両日とも晴天で参加者全員それぞれの種目で汗を流しました。

今年は、定員増により1年生が例年の倍の120名参加しましたので、総勢240名で行う毎年恒例のエアロビクスは、いつもにも増して迫力あるものとなりました。



ただ、マッサージなどの手技や針治療の臨床経験もあまりない私にとまるだろうか?少し悩みました。が家賃などの固定費が少なくすむ事と、リスクが少なくすむため開業を決定。1998年10月にティップネス六甲店に開業。当初はなにがもが初めての事ばかりで戸惑いも沢山ありました。

患者さんとの対応や多種多様な症状に対する治療。また、気持ちのいいマッサージが出来ずに、親友に頼んで講習をしてもつらりと数々の苦勞がありました。その中でも一番苦勞したのは患者さん集めました。フィットネススクラブのなかにあるため、患者さん集めは安易に考えていました。それは大きな間違えで、自分達は健康でフィットネススクラブに來ていると信じている人達には治療院は必要の無いものと感じる人が多かったのです。一日の患者さんが0の日などは山々のものでした。それを宣伝や体験を通して理解してもらい、患者さんが増えて行く事は何事においてもうれしく思いました。そこでは、自分には頼るものはおらず二つをクリアしていく事で、時給制のアルバイトでは得ることのできない患者さんへの対応や治療方法、治療院の経営方法などを学ぶ事ができました。今の自分の基礎になったこの職場に大変感謝をしています。ぜひ、これからの後輩達にもそのような勉強の場を提供できればと考えています。現在は梅田店・京橋店で頑張っています。ぜひ、見学したい方や、働いてみたい方がいらいましたら、いつでもご相談下さい。

健康に感心を持つ人が増えましたが、それに加えて無理な運動や間違った運動や量などにより、ケガや障害を持つ人が増えているのも事実です。当治療所では、コンディショニングプログラムとして、ケガや障害の治療はもとより、ケガや障害を起さないようにする事に力を入れています。その為には、治療だけではなく、運動とケアの関係、その為のマッサージ・鍼灸の必要性を理解していただけるようアドバイスをしています。少しでも多くの会員に健康でいていただきたいと考えています。

活躍する卒業生に聞く



尾崎 卓宏 先生

(22期夜間部)

今回はフィットネススクラブ内の治療所で活躍中の尾崎卓宏先生(22期夜間部)に、卒業されてから現在に至るまでの経緯をお聞きしました。



4期昼間部同窓会「四季の会」



7月28日・29日の2日間、愛知県民の宿にて大人11名・子供1名の計12名で四季の会を開催しました。

(4期 昼間部 大橋 教正)

名簿作成のための調査のお願い

今年度は、名簿作成の年に当たっています。近々調査票が届く予定となっております。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

(7期 夜間部 中村 陽一)

長崎県校友会同窓会



我々長崎県では、6月3日(日)、17時から諫早市の「割烹おはん」で第三回校友会同窓会を開催致しました。楽しい同窓会が出来るのも、本県には10名の卒業生(全員が開業者)がおりまして、幸いにも校友会会員の8割が(社)長崎県鍼灸師会に所属しており、それぞれ役職を持たれ多忙な方ばかりですが、そこは皆さん顔馴染でもあり、「同窓会をしよう」となると直ぐに決まってしまうといった具合です。

25期昼間部同窓会



卒業してから1年が経ち、大阪を離れ故郷に帰った人、開業された人、それぞれ様々な道を歩き出しました。ほとんどが久しぶりの再会とあって、大変有意義な時間を過ごす事が出来ました。これから毎年1回は開催したいと思っています。

(25期 昼間部 西村 竜介)

いま、わたしども森ノ宮医療学園専門学校は、大きな段ボール箱50箱にもおよぶ、代田文誌先生の収集された書籍とご本人の日記や書物になる前の原稿、ご自身が学習したであろう書籍においての書き込みや、鍼灸師や医師、医学部教授との書簡類、そして当時の学会参加者の写真など膨大な原資料に圧倒されている。文誌先生のご子息であられる東京女子医科大学附属東洋医学研究所教授、代田文彦先生のご厚意により、文誌先生の医学関係蔵書および資料一式が当学園に寄贈された。

文誌先生は明治33年に長野県でお生まれになり、大正15年に鍼灸師になられてから、昭和49年に亡くなるまで、鍼灸研究、特に臨床鍼灸師に残されたその大きな功績と影響は、はかりしれない。私どもの学校の初代「学鑑」としてご就任いただいたのは昭和48年のことであった。

戦前において、あるいはつい20年ほど前は、コピー機はもちろん、書物自体も非常に高価で数も多く出回っていない時代、重要な書物が入手できないとき、貴重書あるいは書物そのものが、すべて手書きで写された。さらに重要文献や、メモあるいはその元となる、臨床記録について、

文誌先生は詳細にその記録を残された。(ちなみに当学園図書室は、文誌先生のドイツ語で書かれたカルテのそのほとんどを所蔵している。)特に昭和初期から戦後に至るまで、臨床鍼灸界の優れたリーダーであり、歌人あるいは仏教哲学者の顔を持つ文誌先生の生の資料を見るにつけ、その巨人ぶりは、門外漢の私にもひしひしと伝わってくる。

いつの時代にも、原理・原則なこと普遍的なことと、逆に時代の要請に応じて絶えず変化と変容を求められることがあるように、ひょっとして、鍼灸界の伝統と言われる中にも、その精神的核や脈絡について本質的に変わり得な



いものと、最新医学の研究成果や情報によって、旧来の通説と違って新しいものの見方や技術が時代にあわせて、発展させてゆく、あるいはうまく適合する例があるように思う。代田先生はその両面の哲学と実践を兼ね備えた巨人であったのではないかと素人の私は推察する。

学校では12月に開催される日本臨床懇話会全国集いに合わせ、文誌先生を回顧して特別展が企画されていると聞く。激変の今の時代にあって、代田先生の足跡を見つめ直すことで、残すべき伝統や伝承的なものと、時代の要請にしたがって、最新の研究や臨床現場での事象のとらえ方など、優れたヒントが数多く残されているように思う。



在校生のサークル活動紹介 No.5

剣道部



今回は活動を開始したばかりで、まだ正式に「部」にはなっていませんが、今後の活躍が期待される「剣道部」を紹介します。

1.現在的人数

11人(有段者多数)

2.リーダー

柔道整復学科夜間部2年 葉廣峰久(剣道4段)

3.活動内容

葉廣主将を中心に部員が一つになって日々厳しい稽古に精進しています。日本剣道形を習得することにより、剣の理合、手の内等を習い「切り返し」「かかり稽古」「地稽古」など防具をつけての練習で、1時間30分が早く過ぎていきます。全員有段者を目指しています。

4.今後の予定

今年の10月には大阪市立中央体育館にて中央審査会に参加、時期はまだ未定ですが豊中市民大会個人戦に全員参加、来年の6月には「弥生の里」にて合宿などを予定しています。

新任常勤教職員の紹介

なかしま しげる

中島 茂 先生 大阪鍼灸専門学校卒業

平成13年6月より附属診療所鍼灸室で勤務しています。よろしくお願いします。本学園の剣道部で毎週水曜日(午後9時から)いい汗を流しています。



が原因と考えられますので、現在の住所を校友会まで連絡していただけるようお伝え下さい。

【校友会ホームページ】

森ノ宮医療学園ホームページ

(<http://www.morinomiya.ac.jp>)に校友会のホームページがあります。アクセスして下さい。

【図書だより】

10月中旬、リニューアル予定の学園ホームページで、在校生・OBに限り学園所蔵図書の検索が出来るようになります。IDとパスワードが必要です。

【ニュース】

はりきゅうミュージアムが「医道の日本」誌の

『臨床面接技法』患者との出会いの技

原著:J. Andrew Billings/John D. Stoeckle

監訳:日野原 重明/福井 次矢 訳者代表:大西 基喜

B5判・268頁 定価(本体3,400円+税) 2001年発行

現在、医学教育の問題点としてペーパー試験に意識が偏り、患者との会話や身体診察から治療に至る基本的な臨床技能に関する教育や学習が不十分なことが問題となっている。そこで医学部では数年前より患者との会話を円滑におこなうために医療面接と称したカリキュラムを導入し、指導している。

このような教育は医療従事者が患者との信頼関係を築くために不可欠なもので鍼灸師も例外ではない。特に鍼灸院に来院する患者は慢性症状をもつ場合が多く、その経過は多岐にわたっている。また、そのすべてを患者は話してくれるとも限らない。そういうことから患者の中になるべく入り込み情報聴取を行う意識、技術は必要である。

本書は「患者との出会い」から始まり、臨床決断に患者の意思を反映させるまで、現代の医療面接が果たすべき課題のすべてを豊富な会話例とともに詳述したものです。医療面接先進国である米国でまとめられた本書の内容は、通り一遍のテクニックを超えたコミュニケーションの技であり、医学生・研修医が対象となっていますが、患者と接するすべての医療従事者に必読の書といえるでしょう。

(鍼灸学科教員 小島賢久)

『鍼灸 OSAKA』最新号・好評発売中

<http://www.morinomiya.ac.jp/journal/>

61号(好評発売中)

特集 臨床シリーズ
捻挫の診方と対処法
(足関節を中心に)

カラーグラフ

「黄帝蝦蟇經」臨機影写旧鈔本の出現

インタビュー

首藤傳明先生に聞く Part4(最終回)

教育講座

やさしい栄養学 第19章 消化・吸収

62号(最新号)

特集 臨床シリーズ
肩関節疼痛疾患

カラーグラフ

寛文九年成・飯村玄斎考「銅人形」

ミュージアム・ニュース

〈鼎談〉理想の「身体」はどこにあるか

—— 新刊予告 ——

「もぐさの製法と産地の歴史的考察」

織田 隆三 著

森ノ宮医療学園専門学校 出版部

B5判 1,942円(送料・税別)

年間購読料(季刊4冊) 7,340円(税込)

お問い合わせは TEL 06-6976-6500 FAX 06-6973-3133

掲示板

本欄は、

①校友会から校友会員の方へのご連絡

②校友会員の方から校友会へのご意見・ご要望

③校友会員の方々同士のご連絡など、様々な目的で使用したいと思っています。よろしくお願いします。

連絡先:森ノ宮医療学園専門学校校友会

編集者 清水尚道

TEL(06)-6976-6889

e-mail:koyukai@morinomiya.ac.jp

【校友会からお願い】

住所変更をされる場合は、校友会に連絡していただけるよう、お願いいたします。また、会報が届かない方をご存じの場合、ご転居先が校友会でわからなくなっていること

間中賞を受賞しました。

代田文彦先生から、代田文誌先生旧蔵の資料を寄贈して戴きました。文誌先生直筆のノート・手紙・原稿や写真・日記、古医書・鍼灸書・医学書、また戦前・戦後の雑誌類等々。未発表の草稿や、若い日の記録、書込みのある御著書に諸記録類…。12月1(土)・2(日) 本校で開催される、日本臨床鍼灸懇話会全国集いにあわせて、代田文誌先生の回顧展を企画中です。

また、聖光園細野診療所翠心文庫(古書)の寄贈も、無事移管を終えることができました。これら、特殊資料も順次整理していき、広く利用していただける方法を検討しています。ご期待ください。

【校友会会報次号発行予定】2002年1月